

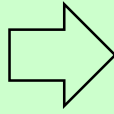
新しい栽培技術を積極的に導入した効率的な経営

にむら ちかや

～ 二村 誓也氏（愛知県岡崎市）～

経営体の概要

平成20年
基幹作物：水稻、小麦、
大豆
経営面積：60ha



現 在：令和元年
基幹作物：水稻（主食用米）、小麦、大麦、大豆、
なす
経営面積：93ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

二村氏のほ場は、岡崎市南部に位置し、平成6年から始まった国営かんがい排水事業等で整備されたことで農業用水の安定供給が確保された大区画ほ場である。二村氏は、国営事業等の計画・着工により、先代が営む農業経営の大規模化の可能性を見出し、平成2年に水田作農家の後継者として就農した。就農当時の経営規模は、25haであったが、確実な作業と農地保全を実施することで地域と緊密な関係を築きつつ、新しい栽培技術を導入し、効率的な経営を行った結果、水稻、麦、大豆で延べ93haの大規模経営を確立している。農業所得の安定確保と併せて、地域の農業の発展にも貢献している。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

明きょ施工等による排水対策の徹底、ほ場の丹念な見回りによる生育ステージに応じた適期作業の実行、病害虫の発生予察や栽培管理情報の活用により、大規模経営でありながら高品質・高収量の稲・麦・大豆を生産している。特に、きぬあかり（小麦）は、平成29年に全国平均の1.6倍にあたる10a当たり収量685kgを実現している。



二村代表（左）と後継者（右）

②省力化・低コスト化

不耕起V溝直播栽培にいち早く取り組み、防除用の無人ヘリコプターや耕起・播種同時作業が可能なアップカッターロータリーなど、新しい技術を積極的に導入する一方で、過剰な機械投資を抑え、必要最小限の装備とした効率的な経営により、小麦の10aあたり労働時間は愛知県平均の約8割を実現している。



播種作業

③作物の変化（高収益作物の導入）

これまで米・麦・大豆で経営規模拡大を進めてきたが、平成30年度より高収益作物として、なすの施設栽培を新たに導入（R1年：30a）するなど、更なる経営安定に取り組んでいる。



なすの施設栽培

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：岡崎市、碧南市、豊田市、安城市、
西尾市、幸田町
受益面積：7,073ha
事業期間：平成6年～平成23年（平成24年～26年）
事業目的：用水改良
主要工事：ダム1箇所、頭首工2箇所、
用水路L=57.4km、水管理施設

位置図（愛知県）



新矢作川用水地区

<問い合わせ先>

東海農政局
農村振興部農地整備課
課長補佐（競争力強化事業推進）
電話：052-223-4638

（令和元年度調査時点）